

第22回 最上川水系流域委員会 議事概要

日時：平成29年10月12日（木）14:00～16:00

場所：山形県自治会館 会議室401号

- ：委員からの質問・意見
- ：事務局からの説明・回答

議事1：「最上川水系河川整備計画（大臣管理区間）の変更について」

- 維持管理も地域の方と一緒にやっていければ良いのではないかと。
- 現在も、除草等は自治体経由で地域と協力、清掃も協力いただいている。
- そういった枠組みをたくさん作ることで、地域の人が川を見る目が変わってくるので、是非とも推進をお願いしたい。

- 異常気象による集中豪雨はどこでも起こるので、最上川でも想定すべき。特に支川、中小河川では、流木に対して弱いという印象を受ける。流木を出さない仕組みも検討してもらいたい。
- 砂防事業で透過型堰堤をつくり、流木防止対策を進めているところ。林業や治山事業と一緒に今後も検討する必要があると考えている。

- 河川、森林、砂防担当者間で定期的に連絡調整会議を実施しており、今後も委員の意見を踏まえて検討していく。

- 目標を超える洪水に対する減災対策を、今後5か年でどこまで行うか示したことは素晴らしく期待している。今後も、こういった取り組み姿勢を示してほしい。
- 本川の整備進捗に対して、支川の排水がうまくいかず氾濫している。内水に対するソフト対策も含めて進めて欲しい。
- 減災に係る取組方針は直轄河川を対象に取りまとめている。現在、県管理河川もふくめて取組方針を修正しており、年内取りまとめの予定。

- 今年、雄物川の水害があったが、築堤の途中段階で低いところから越流して溢れたのか、こういった事例を参考に、最上川の安全を図ってってもらいたい。

- ハード対策は既往最大を対象とする以上、防げない洪水は発生する。そういった認識を持つことが大事で、ソフト対策が重要となる。それには、幼少期からの防災教育が重要。地域として根付かせる対策が大事となってくる。

- ストック効果がどのように発揮されているのか不明な施設もある。スリットダム等は流木を止める効果があるが、その上流に堆砂域が発生し、ある時、流木がこぼれたら、想定されない被害が生じる。定期的に流木を除去する対応なども重要ではないか。
- 堰堤は毎年施設確認している。銅山川上流のスリットダムに流木が溜まってきていることは把握している。どの程度溜まったら除去するか、維持管理計画で検討中。
- 地すべり地形等では不透過の施設が必要であり、場所に応じて必要な施設を検討している。ただ、これまでの施設は除石することを考えている施設ではなく、堆砂による勾配の減少による効果を考えていた施設なので、除石による効果をこれから検討していく。

- ブラックバスのリリース禁止の看板設置がなかなか進んでいないので、手続きの簡略化などの支援をお願いしたい。

- 集中豪雨が増えている中で、支障木伐採面積が増加傾向にあるというが、具体的な場所や今の状況などを教えて欲しい。
- 年々規模を拡大しており、長井地区、村山地区等、広範囲で公募伐採手法で実施している。伐採の際は、野鳥の会の方等に相談し、残すべき木は伐採しないように注意している。

- 九州北部豪雨を受け、流木対策の必要性を痛感している。国と県の関係者間で連携をとっているということで一安心しているが、連携は密にしてもらいたい。
- 流木リスクの軽減、啓発等について連絡調整会議で継続的に検討していきたい。

- 地域住民の自発的な行動として、地域の人が川に行くようになるということが、最上川ではできるのではないか。

- 我々の世代が既に川から離れてしまっている。次の世代を川に親しむために、という観点での取り組みを考えてもらえると良い。

- 簡単な流木対策は、流れやすい木を伐採し、別種の木に植え替えることではないか。吉野川流域での取り組み状況などについて、説明が無く残念。

- 今回の意見や問題提起をいただいたことを踏まえ、どんな取り組みができるか考えていきたい。

議事2：「住民からの意見募集（案）について」

- 山形県にとって最上川は重要なものなので、トップページで意見募集の案内をしてほしい。なかなか意見が集まらないので、意見を集めるための工夫と協力が必要である。
- 意見募集箱は、どこに置かれるのか。ぜひ目立つ場所に置いてほしい。
- 各市町庁舎の入口に置く予定。目立つように工夫したい。

議事3：「今後のスケジュール（案）について」

- 原案の提示は、委員会が初見となるのか。事前にメールなり回覧なりで事前確認できないか。
- 事前に確認いただけるように進めていく。

その他

- 別流域でかわまちづくりをやっていくなかで、普段、川に訪れない人に対して、何故、川に行かないのかを問い合わせないのか、という意見があった。学生に尋ねてみたところ、川に行っても川が見えないという意見があり、そういう観点で支障木の伐採を考えても良いのではないか。
- 大人は川で楽しく遊んでいるのか。大人が楽しんでいないのに、子供に楽しめというのはいかななものか。大人も楽しめるようにという視点を忘れないように。
- 川に行く人に話を聞くと、子供のころに親に連れていかれたという経験がある人が殆ど。親と一緒にというのは大事な視点である。

以 上